

重点施策 9 地域ぐるみで取り組む青少年補導の充実強化

【施策方針】

情報化・国際化・少子化、家庭教育の弱体化など、激動する社会の変化に伴い、人々との連帯意識の希薄化、価値観の多様化、子どもたちの体験不足などが年々深刻化している。

こうした青少年を取り巻く環境の変化が、青少年の初発型非行を誘発する大きな要因ともなっている。

こうした状況のもと、次世代を担う青少年が心身ともに健やかに成長することを願い、青少年の健全育成と非行防止のために、関係機関と連携し、地道な活動を展開していく。その際、青少年センターが「情報収集・発信センター」としての機能を一層発揮し、学校・警察・関係団体と情報交換を緊密にして、補導活動を行う。

また、補導員会創立60周年を迎えるにあたり、今一度原点に立ち返り、補導活動の一層の充実及び青少年をめぐる環境点検と有害環境の浄化に努めるとともに、特にネット犯罪防止に向けての補導員自身の研鑽にも努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 急増するネット犯罪への研修を深め、補導活動・相談活動の充実に努める
- ② 環境浄化活動・防犯相談所活動の充実に努める
- ③ 八幡浜市青少年補導員会創立60周年記念式典・記念講演会を開催し、補導員相互の理解と一層の研鑽に努める

(2) 施策・事業の実施状況

① 補導活動・相談活動の充実

社会の変化に対応し携帯電話やパソコンのネット犯罪、カラオケ、ゲームセンター、喫煙、薬物乱用等に留意し実態把握に努めるとともに、不安定な心理の青少年に「愛の声かけ」を中心に、適切な助言アドバイスを行いながら支援・援助活動を行った。

市内12小学校区に12支部を擁する補導員会では、199名の会員が地区補導・中央補導・特別補導など、164回の補導活動に延べ877人の補導員が参加した。

また、青少年や保護者による悩み事の相談は2件あった。「学校警察連絡協議会(学警連)」等において、学校とも連携し適切な対応を心がけるとともに、必要な助言や指導援助を行い問題解決にあたった。

② 環境浄化活動・防犯相談諸活動の充実

青少年のためのよりよい環境づくり、地域ぐるみの点検、実態調査などの活動を促

進し、不良・有害環境の整備、浄化を図った。

「学校警察連絡協議会（学警連）」と防犯協会等が連携し、市内全域に30の防犯相談所を設置し、悩みをかかえる子どもたちの発見と支援に取り組む相談活動を展開している。青少年センターは、来所または電話による相談に応じるとともに、不審者情報があるときには、保護者等に向け、注意を呼びかけるメール配信を行っている。（メール配信サービスの維持費は青少年センター負担、情報入力 は市教委による。）

③ 八幡浜市青少年補導員会創立60周年記念式典・記念講演会の開催 6月24日

創立60周年を迎えるにあたり、今までの歩みを振り返り、青少年の健全育成と非行防止に向けての決意を新たにするとともに、補導員相互の理解と交流及び一層の研鑽を深め、新しい時代の要請にこたえる望ましい補導活動を積極的に推進することを目的として開催した。多数の御来賓の激励もいただき、参加した118名の補導員は、決意を新たにした。特に、「無形の財産 人がつくった人の世の不都合は人の力で変えられるはず!」と題した小倉くめ様による講演に今後の力をいただいた。

【事務事業点検評価委員意見】

- 本市では、他市町と比較して青少年による問題行動が格段に少ないという状況がずっと続いている。これはひとえに、各小・中学校及び高等学校での確かな教育活動が継続されていることと地域を巻き込んだ健全育成体制が長年にわたって機能してきた証であると言える。頭の下がる思いである。
- 本市の健全育成体制の拠点として青少年センターが長い間に果たしてきた功績は多大なものである。また、学校警察連絡協議会、防犯協会、各地域の防犯相談所、市青少年補導員会など、多くの団体が連携した本市ならではの体制と子どもたちに対する配慮は、子どもが社会人となってからも脈々と受け継がれており、それが現在の子どもたちの健全育成にも活きていると感じる。継続することの意義を改めて感じるができる。
- 現代社会は急激に変化するインターネット社会であり、青少年の問題行動の多くは、大人の目の届かないネット世界で起きたり、ネット環境が密接に関わっていたりする。しかも、ネット社会は青少年犯罪の広域化も生み出しており、容易に取り組める状況ではなくなりつつある。大人がついていけない世界をできるだけ創らせないように、大人自身が研修し続けることと情報交換及び連携ができるより強力な健全育成体制を作ることが、これからも求められる。経験と実績のある本市だからこそ可能ではないかと考える。

【自己評価】

- 八幡浜市青少年補導員会活動方針に基づき、奉仕の精神をベースにした青少年の健全育成並びに非行防止活動に補導員の方々が取り組んでいけるよう、今後も、青少年センターの「情報収集センター」としての機能の充実に力を注いでいきたい。
- 創立60周年記念式典・記念講演会の開催は、昭和32年5月に発足した八幡浜市青少年補導員会の歩みを振り返りながら、補導活動の原点を今一度確認するとともに、今後の地道な補導活動継続の重要性を改めて認識した絶好の機会となった。
- 補導員会研修部を中心とした、県外の様々な施設見学(平成29年度は神戸少年鑑別所を訪問)や補導活動の状況などについての研鑽を深める視察研修の継続及び「ネット犯罪の現状や対策」についての研修を企画するなど、補導員の更なる資質向上に取り組んでいきたい。
また、今後も学校・補導員会・防犯協会・警察生活安全課などとの連携を一層密にしながら、情報の収集など、よりよい環境づくりに努力したい。
- 現在、一般補導員及び教職員補導員を含めて、約200名の方に補導活動に尽力いただいている。今後も青少年の健全育成・非行防止という原点を大切にしながら、活動の継続・発展を目指していきたい。
- 今、市教育委員会では学校統合について提案し、該当校区などで協議がなされつつある。現在の地区補導員は「地域の子は地域で守る」という方針のもと、小学校校区単位で推薦され、小学校長を通して、市教委が任命する運びとなっている。その上で活動している補導員であるので、学校統合の動きなど、これらの状況などを総合的に勘案したうえで、補導員の推薦方法など今後の方向性を考える必要があると考えている。青少年補導員会本部役員会及び地区長会で協議を深めながら、じっくり検討していきたい。